

第1回学校保健安全委員会 報告号

10月7日（木）に第1回学校保健安全委員会を開催いたしました。

学校医の吉村潤子先生、3名のPTA役員の方々、20名の関係職員の参加により、健康診断や新体力テストの結果報告、栄養士、教育相談担当から中等生の心身の健康に関する実態報告に加え、ICTを活用した教育活動を健康的に推進していくための意識の向上についてアンケート結果を基に研究協議が行われました。



〈令和2年度の取組について〉～保健体育課長より～

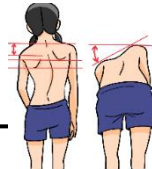
昨年度は、「中等生の心の健康を考える～自分も相手も大切に～」という重点目標を掲げ取り組んだ。新型コロナウイルス感染症予防対策のため、第1回学校保健安全委員会は紙面開催、第2回本会主催講演会は本校初のリモート形式で、元中学校教師のフカキヨこと深尾浄量先生に「人生を豊かに楽しくすばらしく！」と題して御講演いただいた。フカキヨ先生のたくさんの言葉が生徒の心に響いたようだった。

〈令和3年度定期健康診断の結果について〉～養護教諭より～

第1回本会で使用した資料の予備がありますので、ご希望の方は保健室までお申し出ください。

内科検診・検尿

全国平均と比較した本校の肥満傾向の出現率は1,2回生の男子、1回生女子が比較的高く、脊柱側湾及び四肢の異常は、全校で14名に受診勧告を発行している。



歯科検診

1回生は生え変わりの時期とも重なり、むし歯の数が少なくなっている。むし歯と処置歯の合計は、学年が上がるにつれておおよそ増加傾向にあり、歯垢、歯肉の状況については、永久歯が生えそろう2回生に多くなっている。



耳鼻科検診

アレルギーによる鼻炎、副鼻腔炎がある生徒は全校で53名、耳疾患がある生徒は4名であった。

眼科検診・視力測定

アレルギー性結膜炎19名、斜視5名、間歇性外斜視14名、ドライアイ1名。視力検査の結果は、3～5割の生徒が1.0以上の視力を保っており、反対に、0.3未満の低視力の割合は1割～2割程度。また、5～7割程度の生徒が眼鏡またはコンタクトレンズを着用している状況。前年度に比べ視力低下が見られた学年は1回生で48名。全校的には18名増えて215名、37%の生徒に視力低下がみられた。

事後措置状況

治療勧告後の受診者の割合は47.5%で、同時期の一昨年度（22%）、昨年度（34.2%）と比較して、向上している。昨年度は健康診断の実施時期が大きく遅れ、11月までかかったことや、新型コロナウイルス感染症の関係で受診を控えた家庭が多かったことも関係しているのかもしれない。保健だよりでも、呼びかけ、夏休み前にも再度お知らせ文書を発行している。



〈新体力テストの結果について〉～保健体育課より～

全校的に、全国・県と比較し、男女ともに総合点が低い。特に前期生は男女共に全国・県平均との差が大きく、平均を上回った項目がない。しかし、前年度からの伸び率は男女とも高くなっているという現状があり、後期生になってくると徐々に体力もついてきて、平均に近づく傾向が見られる。

本校の特徴としては①個人間の運動能力差が大きい ②全身持久力は全国レベルにあるが全体的に走力が弱い ということが挙げられる。

前期生から後期生にかけて体力向上に繋げていけるような活動を行っていきましょう。



〈食育の充実に向けた取組について〉 ～栄養士より～

5月に全校生徒を対象にアンケートを実施。90%近くの生徒が毎日朝食を摂取しているが、ヨーグルトや果物のみという生徒や、毎日食べないという生徒が10%いることが気になる。残菜0を目指して昨年度から食育指導の取り組みを始め、残菜0が続いている学年もある。寄宿舎ではご飯のお替り制度や野菜のドレッシングをセレクト制にすることにより、残菜が減ってきた。今後もおいしく楽しく食べられるような工夫を考えていきたい。



〈教育相談について〉

現在、登校や教室で授業を受けることに戸惑いを感じる生徒が教育相談室を利用している。また、金曜日の午後はスクールカウンセラーの米田先生が来校され、生徒・保護者・教員の相談にのっていただいている。



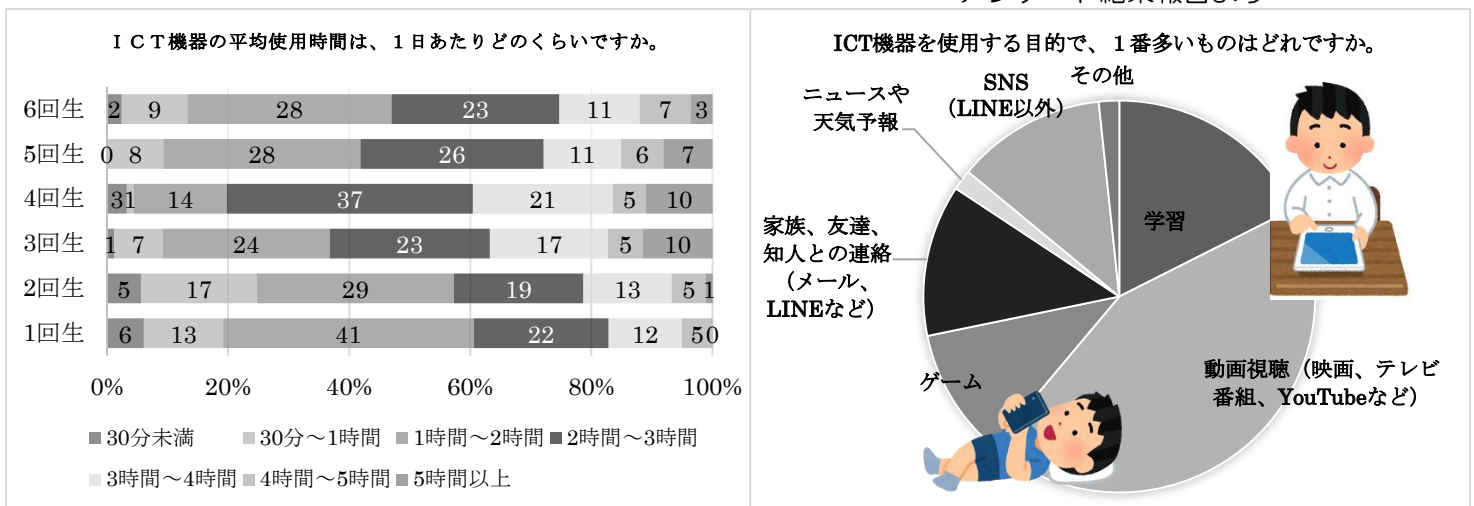
〈今年度の重点課題について〉

ICTを活用した教育活動を健康的に推進していくための意識の向上

学校教育でも一人一台端末を使っての学習が積極的に取り入れられ、ICT機器と日々の生活を切り離して考えることができない状況の中、生徒たちにICT機器の使用によってどのような影響が心身に起こるのかを理解させ、その上で使い方、付き合い方について考え、自己管理する力を育みたいと考え、今年度の重点課題を設定した。

実態把握のため実施した生徒アンケートの結果を踏まえ、学校での様子、ご家庭での様子について意見交換がなされ、とても有意義な時間となった。このアンケート結果を踏まえ、11月4日(木)の本会主催講演会では下関看護リハビリテーション学校の理学療法士の先生方による講演会を計画している。

～アンケート結果報告より～



① 22時でやめる。
② 明るい所で。
③ 姿勢に気を付ける

我が家のルール

なかなか守れず、親子でストレスが溜まるのが現状。友だちからのLINEやメールに返事を返さなければならないという子どもの言い分もある。理想的な使い方を講師の先生にお聞きしたい。

授業で端末を使用することが増えてきたが、授業中の生徒の大きな変容を感じられないことから、端末を使用すること自体よりも生活の中でスマホを使用する時間が増えることで、運動など他のことに費やす時間が減ってきていることの方が問題なのではと感じる。



受験生となり本人の自覚が目覚め、勉強時間が増えたことで必然的にスマホの使用時間が減ってきた。

タブレットの使用時間を守って欲しいが「勉強していた」と言われれば何も言えなくなってしまう。(他校の)我が子は入学して9月までずっとオンライン授業であったが、1日中タブレットに向かって勉強して、顔色が悪く運動もせず、精神的な健康面が心配であった。家族全員が各々にスマホをみる状況をどうにかしたいがどうにもならない難しさを感じる。



「スマホ脳」という本を興味深く読んでいます。スティーブ・ジョブズさんは、我が子にiPadを与えなかったとのこと。スマホ使用の危険性を改めて考えさせられた。